



平成最後の桜回廊

涌谷町長 大橋信夫氏がご逝去



涌谷町長大橋信夫氏(69歳)が、
去る4月4日に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

大橋氏は、平成3年12月に涌谷町議会議員に初当選して以来、平成4年1月から平成26年10月までの6期23年の長きにわたり議員として、豊富な経験と卓越した見識を持って執行部との調整を図り、議会の活性化や農業の再興に尽力され、その間、平成16年には議会副議長、平成20年1月には議会議長に就任し、議会の円滑な運営、活性化に努められました。

その後、平成27年8月に、涌谷町長に当選し、平成31年4月までの間、「子育て環境の充実」と「就業機会の確保」を中心に、厳しい財政状況の中、町政発展に尽くされました。

地方自治法(昭和22年法律第67号)第152条第2項の規定および町長の職務を代理する職員の順序を定める規則(昭和61年涌谷町規則第10号)により、新町長が決まるまでの間、涌谷町長職務代理者を置くこととしました。職務代理者は、総務課長 渡辺信明です。

この間、町長名での各証明書や通知書などは、町長職務代理者名で発行しますので、ご理解をお願いします。

大橋信夫氏の功績を振り返る



平成 27 年 8 月 職員に迎えられ初登庁する大橋氏

就任以来3年8カ月にわたり、超高齢少子化社会や人口流出を憂い、安心して産み育てられる子育て環境の充実と就業機会の確保による人口の定住化、「わくやブランド」の商品開発および販路開拓といった、自立した農業経営の確立に重点を置いた新たな時代の新たなまちづくりに対応する涌谷町第五次総合計画を、涌谷町長に就任後、迅速に策定するなど、多年にわたる涌谷町議会議員としての経験と手腕を発揮し、町政の発展に多大に貢献されました。

大橋氏のその功績について、振り返ります。



平成 30 年 6 月 涌谷保育園の園児の訪問に笑顔で接する

この町の宝を守るための支援政策を実施

急激な少子化の進行を受け、子どもを産み育てる喜びを実感できる社会の実現が重要として、家庭だけではなく地域、職場、学校をはじめとする社会全体で子育て支援に取り組んでいくことが必要不可欠という理念に基づき、福祉課内に子育て支援室を新設し、次代を作る子育て世帯への保育料の助成、児童手当・子ども医療費助成などを手厚くするといった負担軽減を実行しました。

さらに、深刻化する待機児童の解消を目的とした、すべての町立幼稚園において預かり保育を開始するとともに、お弁当給食を導入することで、安心して働きながら子育てができる保育環境の格差是正に努めました。



平成 28 年 12 月 松本産業有限会社との協定締結式

黄金山工業団地造成による企業立地の推進

安心して子どもを産み育てるためには、同時に就業機会の確保が急務として、就任してまもなく、まちづくり推進課内に企業立地推進室を開設。宮城県と連携し涌谷町として初の大規模工業団地「黄金山工業団地」を造成し、三重県から松本産業有限会社の誘致を実現させました。



平成 30 年 11 月 生産者と共に東大寺に金のいぶぎを献納

日本初の産金の歴史に基づく地域ブランド

涌谷町の日本初の産金の歴史が、ほかにはない財産として、さまざまな分野において「金」にまつわるブランド化を推進しました。中でも、玄米食専用米「金のいぶぎ」については、日本初の産金地・涌谷町の現代の金として産地化を図るとともに、奈良東大寺に献納し、涌谷町の地域ブランドとして確固たるものとなりました。

このほかにも、東日本大震災の経験や就任早々に発生した関東・東北豪雨災害の発生を受け、新たな時代に対応した防災体制の強化に努めるなど、町政運営に真正面から向き合い続けました。



走

第42回涌谷クロスカントリー大会

～日頃の練習のパワーを爆発させて田んぼの中を駆け抜ける～

3月21日(木)に、わくや天
平の湯周辺をコースとする
涌谷クロスカントリー大会が
開催されました。今大会には
最年少7歳から最高齢81歳ま
での508人が事前にエント
リー。小雨が時折降るもの、
ほぼ無風の絶好のコンディ
ションの中、陸上競技者やマ
ラソン愛好家が、早春の田園
で、健脚を競いました。

遠田警察署や遠田消防署の
署員の皆さんが広報活動の一
環として仮装したほか、タイ
ガーマスクや紅の豚に仮装し
たランナーが出場し、大会を
盛り上げました。

初出場の紅豚一郎さんは、
「タイガーさんからの誘い
でしたが、ローカル感のある
おもしろい大会でした」と感
想を話していました。

また、疲れた選手を癒やす
温かいおもちをなとして、わ
くや産直センター黄金の郷の
皆さんが生産した野菜をふん
だんに使った豚汁とおにぎり
がふるまわれました。

小学校低学年女子の部で2
年連続大会新記録の優勝をし
たの松下ゆめの選手(円谷ラ
ンナーズ)のほか、3部門で
新記録が出ました。



《写真解説》①鬼気迫る親子の激走②ユーモアあふれる仮装ランニング③2年連続の記録更新となった松下ゆめの選手(円谷ランナーズ)④わくわくポリスも広報活動⑤アツアツの豚汁が選手を癒やす⑥ゴール直前のデッドヒート

平成31年度入園式・入学式

～平成から令和へ。わくわくの新生活のスタート～



少し早めに訪れた春が足踏みしていた4月上旬に、浦谷町立の幼稚園・こども園・小学校・中学校で入園・入学式が執り行われました。

さくらんぼこども園では、36人が新入園。幼保一元化施設ならではの0歳児も入園式に出席します。会場のアリーナには、元気一杯の泣き声や笑い声があふれていました。

浦谷幼稚園には、15人が新入園。保護者と共にわくわくした表情で式に臨み、大きな声で返事をしていました。

各小学校では、この春に幼稚園・こども園・保育園を修了し、少しお兄さん・お姉さんになった児童の皆さんが、入学式に臨みました。しっかりとした姿勢で話を聞き、背筋をピンと張って大きく返事をし、礼儀正しく記念品を受け取っていました。

一つの節目となる5回目の入学式を迎えた浦谷中学校に120人の生徒が新入学。大きめの真新しい制服に身を包んだ生徒たちは、上級生や保護者が見守る中、堂々と入場し、中学生としての自覚の片りんを覗かせました。



《写真解説》①お母さんと一緒にお返事「は～い」②城山の金さんも入園をお祝い③背筋をピンと張って元気よく④小学校入学の成長を感じさせる立ち姿⑤記念品の受け取りもきびきびと礼儀正しくできました⑥少し大きめの制服ですが決意が目に宿る



日本太鼓ジュニアコンクールに初出場 涌谷太鼓が全国の舞台上で躍動

3月24日(日)に、福島県郡山市で開催された公益財団法人日本太鼓財団が主催する第21回日本太鼓ジュニアコンクールに、涌谷太鼓Aチームが宮城県代表として出場しました。

全国大会には、各都道府県大会の優勝チームの他、東北大会などのブロック大会の上位チーム、台湾とブラジルからも出場があり、過去最多の61チームが出場し、課題曲と自由曲を5分間で演奏し競い合いました。涌谷太鼓の演奏順は全体の2番目。初の全国大会であり、大会前半の演奏というプレッシャーをはねのけ、宮城県代表として堂々と演奏してきました。

涌谷太鼓Aチームの一員として出場し今回でジュニアコンクールを引退する香川郁人さんは、「初めての全国の舞台は、宮城県大会や東北大会とも全く違った雰囲気、緊張にのまれてしまいました。5分間の演奏はあっという間でしたが、出場した後輩には、全国上位チームの姿を頭に残し、自分たちもそこまですり着けると信じて頑張ってもらいたい。県大会では追われる立場。他のチームに負けなくらい練習して突破して欲しい」と後輩たちにエールを送りました。



さまざまな皆さんに支えられている桜まつり 涌谷町ボランティアの会が城山を清掃

4月4日(木)に、わくや桜まつりの開幕を前に、涌谷町ボランティアの会が、恒例の城山公園清掃をしました。この日は、涌谷町ボランティアの会会員のほかに、東北電力企業グループと株式会社森森建設工業、ライオンズクラブ、社会福祉法人共生の森、涌谷町社会福祉協議会から総勢103人が参加しました。

涌谷大橋を起点に、特殊堤防、城山公園一円、涌谷神社までの区間を、ごみ拾いや草取り、物かげや側溝にたまった落ち葉拾いを行いました。

昨年の春から1年かけてたまった、1トントラック1台分のごみが回収されました。

また、仙台市青葉区公園課の職員として48年間にわたって定禅寺通りや青葉通りなどのけやき並木を管理してきた造園技能のエキスパート松本郁雄さんに、東北電力企業グループの高所作業車と連携してもらい、桜の成長や開花を阻害するテングス病や胴吹き枝を除去していただきました。なお、涌谷町建設課都市計画班では、松本さんを涌谷町の都市公園等グリーンサポーターとして委嘱しています。

大勢の町民や地域の皆さんの善意によって、涌谷町の桜まつりは、支えられています。



65歳の初監督作品 映画「涌谷7000年の歴史」を上映

3月24日(日)に、涌谷公民館において、涌谷町出身で現在東京都在住の株式会社遊無有の砂越豊さんの映画初監督作品「涌谷7000年の歴史」の上映会が開かれました。

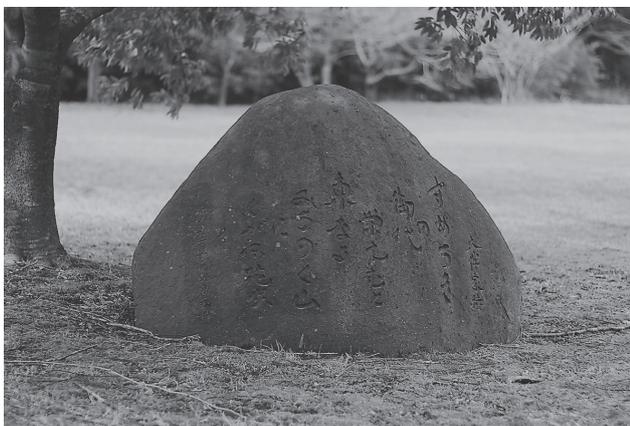
作品は、長根貝塚のほか、追戸横穴古墳、黄金山産金遺跡、麓峯寺、伊達安芸宗重公まで涌谷町の7000年の歴史が凝縮したものでした。さらに、涌谷高校の生徒の皆さんをはじめとして大勢の町民の皆さんが出演。上映会の初回では、200席がほぼ満席になるほどの盛況ぶりでした。



いくつになっても元気に地域を美化 11区コスモスクラブが花壇を整備

3月26日(火)に、11区の老人クラブ「コスモスクラブ」の皆さん15人が集まり、通行するドライバーの目を楽ませることを目的とした恒例となっている国道108号沿いの花壇を整備しました。

「コスモスクラブ」においても高齢化が進んでいることから、これまでのように一年草を毎年植えるのではなく、多年草の球根を植え付け、管理を軽減し今後も長く続けられるようにと、スイセンやヒガンバナが植えられました。



城山の金さんの徳然日誌 新元号「令和」と涌谷町との縁

5月1日から、「平成」に替わり、新元号「令和」がスタートいたします。「令和」は、初めて日本の古典に基づいており、万葉集からの出典となっております。

万葉集といえば、涌谷町の日本初の産金の歴史にも非常に縁深く、産金を喜んだ聖武天皇の詔を受けて、大伴家持が「すめろきの御代栄むと東なるみちのく山に金花咲く」と歌をよんでおり、涌谷町が万葉集北限の地となっております。「令和」が涌谷町にとって良き元号になる兆しかもしれません。

子育て支援サークル・おひさまスマイル活動報告

わくわくパラダイス缶詰工場を見学しよう

3月26日(火)に、美里町南郷にある木の屋石巻水産美里工場を見学しました。

タイム缶詰作りでは、缶の側面に自分らしいデザインを描き、未来の自分に向けた手紙や写真、宝物を入れて完成。工場で製缶の後、届く予定です。

新鮮な魚が缶詰めになる製造ラインの見学ができ、コロコロ移動する缶詰に興味津々。震災で全壊した石巻工場復活の話や試食も体験でき、とてもいい時間になりました。

